



## 下宿準備サイフは固く

### 大学生協連、保護者を調査

今春、大学・短大に入り、実家を離れて新生活を始めた下宿生の保護者が、住まい探しや生活用品購入の費用を切り詰める傾向が一層強まったことが、全国大学生生活協同組合連合会の調査で分かった。

48の大学・短大の新生（自宅生と下宿生）の保護者約1万3800人に、出願から入学までにかかった費用などについてアンケートをした（回収率31・5%）。

交通費や敷金・礼金など、下宿生の住まい探しの費用は22万2400円で、2年連続で減少。2008年と比べると3万1千円少なかった。家賃（管理費込み）も、アパートで月4万3800円（09年比1300円減）、マンションで月5万3100円（同700円減）と、いずれも前年より減少した。生活用品やパソコンの購入額なども2年連続で節約する傾向が見られた。

大学への納付金は、国公立大で61万7800円、私立大で95万6400円で、前年までと大きな変化はなく、生協連は「入学納付金など削れない費用の代わりに、住まい探しなどで節約した家庭が多かったようだ」としている。

入学納付金も含め入学までにかかった費用は、国公立大で自宅生107万4100円、下宿生183万3300円。私立大で自宅生135万200円、下宿生218万3600円。35%の保護者が、「困ったこと・悩んだこと」（複数回答）に費用準備を挙げた。

また、大学生活で心配なこと（複数回答）では、最も多い44・5%が「就職や将来のこと」

を挙げた。生協連が昨秋実施した「大学生生活実態調査」では、下宿生の4割超が奨学金を受け、受給平均金額は初めて月額6万円を超え、不況のおおりに受け、多くの大学生が苦しい生活を強いられている実態が明らかになった。（三島あずさ）

下宿生の経済格差は深刻な状況です。引き続き、安心・安全・快適かつ安価な（コストパフォーマンスの良い）物件に入居希望が集中するものと思われます。

2010.12.6(月) 朝日新聞より抜粋



賃貸住宅 仲介・管理のコンプライアンス企業  
**学生ハウジング 3215.CO.JP**

USAGI通信はメールでの送信も可能です！！

弊社ホームページ<http://3215.co.jp/>からメールアドレスをお知らせ下さい。